



## 自己紹介

大淵由貴（おおぶちゆき）1988年東京都江戸川区出身。千葉大学法経学部総合政策学科卒。大学時代は環境NGOの活動に従事、また休学してバンクーバーでワーホリを経験。卒業後、電機メーカーで5年間営業を勤め、会社を退職して青年海外協力隊としてマダガスカルで活動中。

## アレファ！パレア！

アフリカネーションズカップ2019（サッカーのアフリカ1位を決める大会）で快進撃を見せたマダガスカル。近所でも広場にスクリーンが設置され（家から徒歩10秒）大勢の人が観戦しました。点数が入るたびにブゼラを吹き、国旗を振って大騒ぎ！準々決勝敗退となりましたが、W杯ももう夢ではありません！  
 (ALEFA=行け行け BAREA=ナショナルチームの愛称、野生の牛の意)



## 生活改善活動発表大会

### ～他グループの取り組みを知ることで、活動の活性化へ～

アンチラベII郡という街で隊員とその配属先が主催となり、生活改善活動発表大会が開催されました。活動は主にグループで実施されていますが、普段は外部の人に見てもらう機会はありません。発表することにより、外部からのフィードバックをもらうことができます。また他グループの発表を聞くことで活動のアイデアを得る機会となりました。

**\*活動発表**：活動の目的、目標、実施したこと、その成果、今後の展望を発表します(写真①)。優勝グループはエコツーリズムやシルク生産など、地域資源を上手く活かした活動を展開していました。生活改善活動は継続して改善していくことが要です。今回優勝を逃したグループも、今後も活動を続けてほしいと思いました。

**\*グループワーク**：6人程度のグループを作り、「生活を良くするために優先順位が高いもの(家、水、洋服、健康…etc)」の順位を付けを行いました(写真②)。一番優先順位が高いものに対して、問題と解決策を考えます。私が見学していたグループでは「家」の順位が一番高く、「家畜が家の中にいる」「トイレがない家庭がある」等、家の衛生面が問題としてあがっていました。対策としては家畜小屋やトイレを作ることですが、まずはすぐに取り組めることとして、「集落の掃除の日を決めて一斉に掃除する」などのアイデアが出ました。

私も生活改善活動の展開を行っていますが、大勢の人を集めたり、配属先を巻き込むことはできていません、その分、私が情報の伝達役になりながら、残りの任期も農村でできることを考えていこうと思います。

## 妊婦と乳幼児の食事調査

### ～農村の食事を知り、不足している栄養素を探る～

栄養に関するプロジェクトの担当者が、隊員向けの勉強会を開催してくれました。栄養に関する講義と農村での食事調査の二本立てで行われました。子どもの脳は妊娠～2歳までに大事な機能ができあがると言われているため、今回の調査は「妊婦及び2歳未満の乳幼児の食事内容」です。食事の量を把握し、摂取すべき量とのギャップを知り、不足をどう埋めていくかを考えます。食事サンプルを提示して答えてもらう方法と、前日に食べたものを思い出してもらう「24時間思い出し法」で聞き取り調査を行いました。今回は妊婦と乳幼児が対象でしたが、調査対象を変えて自分の活動に取り組む方法を検討したいと思っています。

